

心霊ミステリー 実写化に手応え

CMディレクターとしても活躍する広島市佐伯区出身の森ガキ侑大監督(37)の2作目となる長編映画「さんかく窓の外側は夜」が22日から全国公開される。家族の絆を描いた前作の「おじいちゃん、死んじゃったって。」から一転、心霊探偵コンビの活躍を描くミステリーとなった。森ガキ監督は「やったことのないジャンルに挑戦したかった。単なる謎解きにとどまらない人間ドラマになった」と語る。

(里田明美)

漫画原作心の機微リアルに 22日公開

ヤマシタトモコの人気コミックを実写化。霊が見える書店員(志尊淳)と除霊師(岡田将生)が手を組み、除霊作業の仕事に当たる。そんな中、二人は未解決の連続殺人事件の捜査に協力することになり、呪いを自在に操る女子高校生(平手友梨奈)と出会う。

森ガキ監督は「漫画では違和感がなくても、実写にするとうそっぽくなる部分もある。原作の世界観を保持しつつ、いかに具現化するかが難しかった」と振り返る。幽霊を映像化する新たなアイデアが浮かび、演出の幅が広がったという。望まない能力を持った3

人は、それぞれが心に傷を抱え、孤独を感じている。「痛みを持つ者同士が出会い、存在意義を見いだす筋立ては、共感してもらえないのではないか。今の時代に通じるテーマだと思ふ」と原作の魅力を語る。

広島工業大在学中に映画監督を志した森ガキ監督。



森ガキ監督。「これからもいろんなジャンルの作品に挑戦したい」と話す

CMディレクターとして数々のヒットCMを手掛けたがら、「人間」を描こうと思いつけてきたという。この作品では心の機微を描くこととサスペンスの両立に最も力を注いだ。「いつかは古里の広島を舞台にした作品を撮りたい」と構想を膨らませる。